

地方独立行政法人天王寺動物園の業務実績評価シート（大項目・全体評価用）

（令和7年度中実績・令和8年度評価）

■大項目にかかる評価

【評価点】
S：特筆すべき進捗状況
A：計画どおり
B：おおむね計画どおり
C：やや遅れている
D：重大な改善事項あり

（参考：小項目の評価点）
V：計画を大幅に上回って実施している
Ⅳ：計画を上回って実施している
Ⅲ：計画を順調に実施している
Ⅱ：計画を十分実施できていない
Ⅰ：計画を大幅に下回っている

【小項目評価（Ⅴ～Ⅰ）の大項目評価（S～D）への反映の考え方】
●小項目について、おおむねⅢの評価であれば、大項目はB評価を基本とする。
●大項目について、B以外の評価を行う場合は、小項目の評価でⅣ以上の高評価・Ⅱ以下の低評価となっている項目について、単に項目数ではなく、項目ごとの内容の中期目標での重要性等を考慮し、総合的に判断の上、その理由を示す。

大項目	番号	内容	詳細（中期目標より）	市長評価				評価委員会意見 （要旨）
				大項目		小項目		
				評価点	評価の理由	番号	評価	
1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	1	動物展示の充実と快適な園内環境の創出による動物園の魅力向上	・多くの方に来園したいと思っていただけるよう、展示動物の充実により動物園の魅力を向上させるとともにその魅力発信を強化する。 ・再度来園したいと思っていただけるよう、快適な園内環境を創出する等、来園者満足度を高めるための園内サービスの充実を図る。	S	・複数の希少動物の導入に加え、アジアゾウ3頭の導入を達成したことで、園の魅力向上に大きく貢献した。 ・JAZA（日本動物園水族館協会）の個体群管理計画に基づく種別管理等を受嘱するなど、他園との信頼構築に努めている。 ・昨年度に引き続き開園110周年イベントを実施したほか、大阪・関西万博と関連した取組や積極的な広報活動を行うことで、園の魅力発信、サービスの充実に意欲的に取り組んだ。 ・ファンクラブについては、各種イベントで宣伝するなど、認知向上に取り組んだほか、ガチャ付き入園券といった新たな取組を開始したことで加入者増につながった。 ・園内巡視や来園者の声を反映した美観保持に努めることで、来園者から高い満足度を獲得した。 ・上記より特筆すべき進捗状況であることからS評価とする。	1	V	
						2	Ⅲ	
						3	Ⅲ	
						4	Ⅳ	
						5	Ⅳ	
						6	Ⅲ	
						7	Ⅲ	
						8	Ⅲ	
						9	Ⅲ	
						10	Ⅲ	
						11	Ⅲ	
						12	Ⅲ	
	2	動物の生態等に関する理解や関心を深めるための教育活動の推進	・教育普及機能を強化し、飼育動物の生態のみならず、環境問題も視野に教育普及活動を行い、来園者の行動変容に繋げる。	B	・来園者の行動変容へつなげる取組として、教育普及アクションプランに基づき、開園110周年記念の企画展を複数実施するなど、教育活動の推進に貢献した。 ・教育効果をさらに高めるため、おやつ・ごはんタイムの運用改善策を検討した。 ・上記より、おおむね計画どおり進んだことから、B評価とする。	13	Ⅲ	項目全般（行動変容） ・中期目標において、教育普及活動の成果に「行動変容」を掲げているが、「意識変容」よりも把握の難易度が高い。実際の活動とミスマッチとならぬよう、目標や成果の確認手法について検討が必要である。
						14	Ⅲ	
						15	Ⅲ	
	3	動物福祉に配慮した飼育管理と高度な飼育技術の確立	・動物園の主役である動物たちが健康で幸せに暮らせる環境を創出するために、飼育管理機能を強化する。 ・飼育技術を継承・高度化するとともに、世界に通用する飼育基準に適合した獣舎整備を推進する。	A	・作業マニュアルの点検・検証に加え、監視カメラを設置することにより動物の逸走対策を強化した。 ・環境エンリッチメント、ハズバンダリートレーニングについて対象種を拡大し、その中で質的向上が認められるなど、飼育技術の高度化につながった。 ・獣舎整備については、必要面積などJAZAの適正施設ガイドラインに準拠した獣舎を整備したほか、既存の獣舎の維持管理に努めながら、今後の整備に向けた検討を進めた。 ・上記より、計画どおり進んだことからA評価とする。	16	Ⅲ	項目16（ヒヤリハット） ・ヒヤリハット事例の報告及び共有を強化しているのは良いことだが、報告だけで満足することなく根本要因の減少に向けた取組を進めてほしい。 項目17（環境エンリッチメント・ハズバンダリートレーニング） ・取組の幅を広げ、様々なチャレンジをしていることは評価するが、対象種の数値目標に偏重することなく、効果の検証など、動物福祉の向上に重心をおいて進めてほしい。 項目19（リニューアル工事） ・獣舎の整備は遅れることが多い中で、目標どおりではあるが、工期内で整備が完了したというのは法人の努力があったのものと考える。
						17	Ⅳ	
						18	Ⅲ	
						19	Ⅲ	
						20	Ⅲ	
	4	繁殖及び調査研究活動の推進	・飼育動物の維持・充実とともに、生息域外保全という観点から種の保存に貢献するため、繁殖技術の向上を図る。 ・動物の生態に係る各種調査研究活動を推進することで国内外の動物園からの信頼を高める。	A	・繁殖に向けた取組を継続したほか、オオサンショウウオの保全に取り組んだ結果、調査実績が評価され単独で調査することが認められた。 ・日本産動物をテーマとした普及啓発イベントを開催し、種の保存に貢献した。 ・調査研究については、継続して飼育各班に研究テーマを割り当て、研究を実施したほか、各種研究会で研究結果を発表し、他園と知見の共有を図った。 ・上記より、計画どおり進んだことからA評価とする。	21	Ⅲ	項目23（オオサンショウウオ調査） ・単独での調査が可能となり、日本産動物の生息域内保全の取組が開始できているという点は高く評価する。 項目25（研究発表） ・研究発表を数多く実施しており、高く評価する。今後は論文を数多く投稿することが、ステップアップにつながると考える。
						22	Ⅲ	
						23	Ⅲ	
						24	Ⅲ	
						25	Ⅳ	

大項目	番号	内容	詳細（中期目標より）	市長評価				評価委員会意見 （要旨）
				大項目		小項目		
				評価点	評価の理由	番号	評価	
2 効 率 業 務 に 運 関 営 す る 改 善 項 及 び	1	自律的な組織経営	・機動的な組織体制の構築 ・適材適所の柔軟な人事配置	B	・機動的な組織体制の構築に向け、研修等による職員の意識醸成や採用活動を継続的に実施しており、おおむね計画どおり進んだことから、B評価とする。	26	Ⅲ	項目全般（人材確保） ・人材の確保については、将来の組織運営にかかる重要な取組であるため、現状を分析してしっかり対応いただきたい。
						27	Ⅲ	
	2	人材の確保・育成と職員の能力向上・意欲喚起	・人材の確保・育成 ・職員の能力向上と意欲喚起	B	・継続して人材育成に係る研修等を実施した。 ・資格取得支援制度に簿記を追加するなど、適宜改正を行った。 ・よりインセンティブが適正に働く人事評価制度を構築すべく、検証と見直しを行った。 ・上記より、おおむね計画どおり進んだことから、B評価とする。	28	Ⅲ	
						29	Ⅲ	
						30	Ⅲ	
	3	効果的・効率的な業務執行	・PDCAサイクルの確立 ・ICTの導入及び活用	B	・適宜、市と情報共有を図りながら進捗管理を行ったほか、今後の業務の効率化にむけてkintoneを導入し、おおむね計画どおり進んだことから、B評価とする。	31	Ⅲ	
32						Ⅲ		
3 財 務 内 容 の 改 善 に 関 す る	1	収入の確保	・着実に入園料収入を確保する。 ・戦略的な渉外営業や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。	B	・入園料収入は目標値に届かなかったものの、入園料外収入は、寄附付き入園券などの新たな取組の導入や開園110周年記念グッズ等の開発により、目標を上回った。 ・クラウドファンディングを実施し、積極的な広報活動により2ndゴールを達成することができた。 ・上記より、おおむね計画どおり進んだことから、B評価とする。	33	Ⅱ	項目33（入園料収入・入園者数） ・入園者数の目標値については、猛暑や少子化の影響もあることから、安易に右肩上がりを想定せず、減少要因をしっかりと反映させた値を設定する必要がある。 ・目標には届かなかったが、猛暑などの減少要因がある中で、前年並みの入園者数を維持できているのは評価できる。 ・企業との連携は、収入の確保に有効であるため、継続するとともに更なる工夫も実施いただきたい。
						34	Ⅳ	
						35	Ⅳ	
						36	Ⅲ	
	2	経費の節減	・業務内容の精査により、経費節減に努める。 ・投資についても、経費の抑制に努める。	B	・光熱水費の削減に継続的に努めるとともに、獣舎整備についても予算内で完了し、おおむね計画どおり進んだことから、B評価とする。	37	Ⅲ	項目38（リニューアル工事） ・近年の物価高騰や労務単価の上昇を考慮すると、予算内で遅延なく整備が完了したことは法人の努力があったと考える。
						38	Ⅲ	
4 そ の 他 業 務 運 営 に 関 す る 重 要 事 項	1	内部統制の強化	・法人が適切に業務を運営していくため、内部統制の確立・強化に必要な環境を整備する。	B	・継続して内部統制にかかる取組を実施しているほか、不適正事案の発生に際しても適宜対応し、再発防止策を講じており、おおむね計画どおり進んだことから、B評価とする。	39	Ⅲ	
						40	Ⅲ	
						41	Ⅲ	
						42	Ⅲ	
						43	Ⅲ	
						44	Ⅲ	
						45	Ⅲ	
	2	来園者の安全確保	・施設を適正に維持管理するとともに、計画的に施設の整備を推進する。	B	・来園者の安全確保に向けて、継続して猛獣脱出訓練等に取り組んでおり、おおむね計画どおり進んだことから、B評価とする。	46	Ⅲ	
						47	Ⅲ	
						48	Ⅲ	
	3	職員の安全衛生管理	・安全対策の徹底と事故防止に努める。 ・職員が心身ともに健康を保持し、その能力を十分発揮できる職場環境づくりに努める。	B	・職員の安全・健康保持に向けた取組を継続して実施しており、おおむね計画どおり進んだことから、B評価とする。	49	Ⅲ	
	4	環境に配慮した取組の推進	・環境に配慮した取組を推進する。	B	・継続して環境に配慮した取組を着実に実施し、おおむね計画どおり進んだことから、B評価とする。	50	Ⅲ	
	5	情報公開の推進	・毎年の業務実績報告書等により情報公開を推進する。	B	・財務諸表や年報のほか、第2期中期計画等について公開し、おおむね計画どおり進んだことから、B評価とする。	51	Ⅲ	
	6	BCPの策定	・BCP（事業継続計画）を策定し、重大事故等の危機事象が発生した際の体制を構築する。	B	・次年度以降のBCP改定にむけて検討しており、おおむね計画どおり進んだことから、B評価とする。	52	Ⅲ	

■全体評価

- 各項目の評価を踏まえ、記述式で評価。
○年度計画の項目にはないが、中期目標の達成に資するものがあれば、ここで評価を行う。

【市長評価】

全体として計画どおりに進捗したと評価できる。 特に、令和7年度末にマレーシアからゾウを導入できたことは大きな成果であり、8年ぶりの展示という園の魅力向上にとどまらず、繁殖に関する調査・研究など生物多様性保全に資する取組としても重要な意義がある。また、これに伴う獣舎の改修・拡充や準間接飼育法の導入などは、動物福祉の観点からも非常に重要である。 また、ゾウ以外の希少動物として、昨年6月にアムールトラを導入するとともに、トラ舎の充実に向け、令和3年度以来2回目となるクラウドファンディングを実施し、広報活動や受入れ方法の拡大など新たな取組を行った結果、2ndゴール（22百万円）を超える約24百万円を獲得したことは高く評価できる。 そのほか、調査研究を継続し、他園との知見共有を進めるとともに、生息域内保全・生息域外保全の取組を拡大できた点も評価できる。 イベントによる魅力向上の取組に関しては、開園110周年イベントを多数実施したほか、人気のホッキョクグマイイベントでは、アンケート結果の分析を踏まえ新たな取組を実施したことで満足度をさらに向上させることができた。 加えて、物価や人件費が高騰する中で、計画どおりに「アジアの森ゾーン」及び「新ホッキョクグマ舎」といった大規模獣舎を、予算内かつ工期内で完成させたことは、法人の努力の賜物である。 また、少子高齢・人口減少社会が進展する中、持続的かつ安定的に天王寺動物園を経営するためには、人材の確保と人材育成は重要であり、資格取得支援制度の見直しなど、各種制度の見直しを行った。今後とも、計画的かつ柔軟に人材確保に努めるとともに、職員の意欲喚起につながるよう、制度・運用両面から検証・見直しを実施し人材育成の充実が図られることを期待する。 財源確保の面では、入園料外収入として、クラウドファンディングの実施のほか、寄附付き入園券等の新たな取組により目標を上回る寄附額を獲得できたが、入園料収入については猛暑などの影響もあり、上半期の入園者数が目標値に届かなかった。入園者数に関しては、原因の分析結果を踏まえ、今後どのように増加させていくか、具体策の検討を進められたい。 第2期における法人経営を持続可能な確固たるものにするため、法人は第2期中期計画を定めた。さらに、より具体的かつ計画的に取り組めるよう、マーケティングや営業戦略に精通した外部人材を登用し、ファンクラブ収入等収益源の多様化と安定化を目指した経営戦略を策定するとともに、地方独立行政法人の強みである柔軟かつ迅速な意思決定や実行力、組織内のコミュニケーションの一層の充実を目指した組織力向上計画、動物福祉に配慮した展示や来園者サービスの向上、緑化による快適な空間の形成や地球環境への配慮などを目指した施設整備計画を策定した。第1期の成果と課題を踏まえ、次期取組へ効果的に反映させ、引き続き「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指してほしい。
--

【評価委員会意見（要旨）】

地方独立行政法人化から5年が経過し、法人の努力や蓄積してきたノウハウが成果として着実に表れている。特に、希少動物の導入や動物福祉に関する取組、各種研究発表等の実施については、市の評価と同様高く評価する。今後は研究の成果が論文の形になり実績が蓄積されていくことを期待したい。加えて、物価や人件費が高騰する中、また、獣舎整備は遅れることも多い中、大規模な獣舎整備を工期内・予算内に完了した点も、高く評価する。 一方で、人材の確保・育成については、現状を分析したうえで、計画的かつ確実に対応されたい。環境エンリッチメント及びハズバンドリートレーニングについては、取組の効果を検証しながら、動物福祉の質的向上に重心を置いて推進することを期待する。 また、市が法人の業務実績を評価するにあたっては、評価指標や目標設定の妥当性について今後も検討が必要である。
